

## 「国際森林年の集い in 山梨」を開催しました。

本年2011年は、世界の国々が地球上の森林を将来にわたって持続的に経営し、守っていくため、国連が「国際森林年」と定め、その契機としています。

日本には化石燃料が乏しい反面、豊富な森林資源があります。エネルギー政策の転換が議論されている今、「木質バイオマスの利用」をキーワードとして、山梨森林管理事務所では10月19日(水曜日)、南部町「びゅあ峡南(県男女共同参画推進センター)」において、甲斐国(かい)の森林・林業の再生に向けたシンポジウム「国際森林年の集い in 山梨」を開催しました。

パネリスト等を含め約130名の参加をいただき、会場は満員御礼となりました。

主催：林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所

共催：山梨県森林整備加速化・林業再生協議会

後援：山梨県

特別協力：国際森林年国内委員会事務局



歓迎の言葉(佐野和広 南部町長)



主催者あいさつ(木下喜博 関東森林管理局次長(東京事務所長))

シンポジウムでは、開催に当たり 佐野和広 南部町長より開催地の歓迎の言葉を賜り、続いて 木下喜博 関東森林管理局次長(東京事務所長)より主催者を代表してあいさつしました。

その後、熊崎実 筑波大学名誉教授が「地域の自立はエネルギーの自立から～眠れる資源、森林バイオマスの有効利用を考える～」と題した基調講演を行いました(講演資料は別添参照)。熊崎先生は、日本の森林資源の持つポテンシャルは大きいとした上で、国内の新しい動きなども紹介しながら、これからの木質エネルギー戦略、特に中間山地における地域熱供給に触れ、森林を動かし、林業の再建につなげていくことが必要と話されました。



基調講演(熊崎実 筑波大学名誉教授)

引き続き、熊崎先生をコーディネーターとして、甲斐国(かい)の森林・林業の再生に向けたパネルディスカッションを行いました。パネリストには、辻一幸 山梨県林業団体協議会会長(早川町長)、古屋武仁 木 net やまなし推進協議会会長((有)古屋製材所社長)、矢川満 南部町森林組合代表理事組合長、安富芳森 山梨県森林環境部技監、またオブザーバーとして 木下喜博 関東森林管理局次長(東京事務所長)が参加しました。

パネルディスカッションでは、森林・林業を取り巻く国内情勢、県内にも集約化等の新しい芽が出てきている事例などが出され、また、森林・林業技術者の育成、木材の安定供給等の課題について議論が行われました。地域の課題は地域で考える必要がある一方で、そのための財源の手当が必要といった意見も出されました。フロアとの質疑応答も行われ、地域住民も参加した関係者間の意見交換が有意義に行われました。



熱心な議論が行われたパネルディスカッション(左から辻、古屋、矢川、安富、木下、熊崎(敬称略))



**満席で熱気あふれる会場**

**最後に、望月仁司 身延町長より、結びの言葉を賜り、本シンポジウムは閉会しました。**



**結びの言葉(望月仁司 身延町長)**



会場のロビーでは、パネル展示で木材利用や国際森林年の取組をPRしました。



午前中は間伐作業地や製材工場の見学会も行い、参加者の皆さんからは、森林・林業に関わる川上や川下の取組について理解を深めることができたといった感想が聞かれました。